

第20回 町長定例記者会見

- 開催日時 平成31年3月1日（金）午後1時30分～
- 開催場所 遠軽町役場3階第3会議室
- 記者数 3人

報道機関の皆様におかれましては、日頃より町政など地域の情報を町民にお届けいただき、心からお礼申し上げます。

それでは、定例記者会見、今回の議題についてご説明申し上げます。

■広報紙閲覧アプリ「マチイロ」について

本年1月から、毎月発行している「広報えんがる」を、より多くの皆様に手軽に読んでいただくため、スマートフォン用の広報紙閲覧アプリ「マチイロ」での配信を始めました。

「マチイロ」は、全国800を超える自治体で導入されており、オホーツク管内では、「初めて」の導入ということで、幅広い世代での利用が期待されますが、特にスマートフォンを使用する若年層の閲覧が増え、さらに町に関心を持ってもらえることを期待しています。

「マチイロ」を利用して、いつでも・どこでも「広報えんがる」を気軽にご覧いただければと思います。

報道機関の皆様におかれましては、既に新聞等でPRしていただいておりますが、今後とも町の情報発信に、ご協力をいただきますようお願いをしております。

■FISフェーイーストカップ2019遠軽大会の開催について

昨年に引き続き3回目となる大会が今年も開催されます。競技は3月3日に「遠軽信用金庫杯」の大回転が、4日に「デサントカップ」の回転が、5日には「えんがるカップ」の回転がそれぞれ行われます。

今大会には、海外選手を含む120人がエントリーしており、2月4日からスウェーデンで開催された、2019FISアルペン世界選手権代表選手の安藤 麻選手、向川桜子選手も出場を予定しております。

今回も、陸上自衛隊第25普通科連隊と大会運営に関する協力協定を締結し、コースネットフェンスの設営や滑走面に水を撒き、雪面を凍らせ、より良い競技環境を整える事前準備やレース当日の競技役員として支援をいただくところです。また、大会期間中は、SAJ（全日本スキー連盟）の関係者や町民ボランティアなど、延べ150人の支援をいただき、寒い中でのご協力に深く感謝いたします。

さらに、大会3日間の場内放送には、国内で開催されるワールドカップ実況を数多く手がけたことのある、フリーアナウンサーの吉田暁央氏をお招きし、選手のプロフィールや臨場感あふれるレース実況をお届けできるものと考えております。

ぜひともスキー場に足を運んでいただき、世界で活躍するトップスキーヤーの滑りをご覧いただきたいと思います。

■観光イベント等について

2月16日と17日の2日間、遠軽青年会議所の主催により「第4回えんがる屋台村雪提灯」が開催されました。

このイベントは、3年前から青年会議所が主体となり、陸上自衛隊第25普通科連隊などの協力により開催されております。今回も親子連れから年配の方まで、大勢の方にお楽しみいただいたとのことであります。

2月24日には、湧別町と連携して実施しております国内最長コースの湧別原野オホーツククロスカントリースキー大会が開催され、1,000人を超える皆さんに、雄大なオホーツクの自然をお楽しみいただき、全国に当地域の魅力を発信できたものと考えております。

また、明日3月2日から3日にかけて「丸瀬布森林公園いこいの森、スノーキャンプ体験」を実施いたします。

冬期間閉鎖している「いこいの森」を活用しようと思われるもので、町外の方を招いて、スノーキャンプや山彦の滝ナイトツアーなどを体験してもらい、アンケートを実施し、新たな冬の観光資源を活用するメニューを模索して参ります。

次に、豊富な資源あふれる遠軽の温泉地をめぐってスタンプを集める「縁がある湯めぐりスタンプラリー」を、3月10日まで開催しています。

遠軽の温泉、生田原温泉ホテルノースキング、セトセ温泉ホテル、丸瀬布温泉やまびこを巡って、3か所のスタンプを集めた方、先着100名様にオリジナル手拭いをプレゼントしています。さらに、町内の温泉施設を発行日より3日間、満喫できる温泉手形を販売しています。

まだまだ寒い季節が続きますが、冷えた体を町内の温泉をめぐって、身体の芯から温めていただければと思います。

雪解けが進む4月には、太陽の丘えんがる公園虹のひろばと丸瀬布森林公園いこいの森がオープン控えております。さらに、5月には太陽の丘えんがる公園の芝ざくらを楽しむイベントを予定しております。

これから、遠軽町は春、そして夏の観光シーズンを迎えます。ぜひ多くの皆様に、遠軽にお越しいただき、お楽しみいただけるよう準備をして参ります。

なお、観光ではありませんが、3月20日に「農業を未来につなげる i n 遠軽」が開催されます。

近年、農業人口の減少、高齢化が進む状況の中、新たな農業者の育成確保が喫緊の課題であり、新規就農希望者の研修や、その後の受け皿づくりが重要であるところです。

この研修会を通じて、次世代へ農業を継承する担い手が誕生するように、農業に関心のある方など、たくさんの皆様の参加をお待ちしております。